

日本国内閣総理大臣
菅 直 人 殿

2010年6月17日

主要国首脳会議（G8）ムスコカサミットに向けた国際 NGO ワールド・ビジョンの要望

本年、国連ミレニアム開発目標(MDGs)が、達成期限まであと5年という重要な局面を迎える中、達成に向けた進捗が最も遅れている妊産婦死亡・乳幼児死亡を削減する目標に関し、世界的にも関心が高まっており、きたる G8 ムスコカサミットでも、主要議題の一つとして掲げられています。



年間 880 万人の子どもたちが 5 歳の誕生日を迎えることなく命を落としています。しかし、有効かつ費用対効果に優れた対策は明らかであり、そのような対策がなされれば、乳幼児死亡の 3 分の 2、妊産婦死亡の 8 割を救うことができます。

近年、G8 の国際保健分野への貢献などもあり、世界の子どもたちの健康をめぐる状況は飛躍的な改善をとげました。しかし、世界的な経済後退、食料危機、そして気候変動の影響などにより、これまでの成果が失われかねない状況にあります。9月に予定されている国連 MDGs レビューサミットが成功裏に終わるためにも、G8 はムスコカサミットにおいて、有効な処方箋を実行し、世界に指導力を示す必要があります。

つきましては、ムスコカサミットにおいて、他国の首脳とともに、救えるはずの母子のいのちを守るため、下記の行動をとってくださるよう、お願いいたします。

1. ミレニアム開発目標、および、G8 の保健に関する公約実現のため、保健分野に提供する資金規模を拡大し、また、提供される資金につき、ドナー間での援助協調を高める。
2. 昨年 G8 が合意した「妊産婦・新生児・子どもの保健のためのコンセンサス」を実践するため、母親と子どもの健康に関する世界行動計画を策定・合意し、速やかに実行する。
3. 昨年 G8 が合意した「ラクイラ食料安全保障イニシアチブ」を早期に達成し、妊産婦と乳幼児の生存に不可欠である十分な栄養摂取を保証する。

日本政府が 2008 年に「国際保健に関する洞爺湖行動指針」提唱プロセスにおいて果たした役割は、世界的にも高く評価されております。さらに、昨年国連総会にて MDGs 実現のために努力を倍加すると発信された民主党政権には、高い期待が寄せられております。

ぜひ私どもの提言をご考慮いただき、救えるはずの命を守るため、日本政府として具体的なコミットメントを示してくださいますよう、お願い申し上げます。

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長 片山 信彦

G8サミットキャンペーン

「子どもたちを救うG8サミットを！」

賛同者 3,933 名一同